

令和4年度

## 北九州市平和のまちミュージアム運営懇話会

日 時 令和4年8月25日(木) 10:00  
場 所 15C会議室(市庁舎15階)

### 次 第

- 1 開 会
- 2 総務局長挨拶
- 3 懇話会委員の紹介・懇話会の目的
- 4 座長選出
- 5 報 告  
平和のまちミュージアムの管理・運営の状況
- 6 議 題  
集客事業について(今後の方向性)
- 7 閉 会

## 北九州市平和のまちミュージアム運営懇話会について

### 1 概要

「平和のまちミュージアム」（以下「ミュージアム」）の管理・運営や展示内容等について、有識者等から意見を聴取し、今後の事業の参考にするため「北九州市平和のまちミュージアム運営懇話会」を設置する。

### 2 審議事項

- ・ミュージアムが実施する運営（事業計画・実績報告）に関する事
- ・ミュージアムが実施する事業・展示に関する事 等

### 3 任期 2年間

### 4 委員名簿（敬称略・50音順）

氏名	所属・補職
近藤 倫明	北九州市立大学特任教授
財津 梨花	北九州市立大学文学部3年 (桜丘小学校学習支援プロジェクトリーダー)
佐方はるみ	九州女子大学教授
出口 敬子	聞き書きボランティア「平野塾」副代表
戸高 一成	呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム館長）

(オブザーバー)

氏名	所属・補職
篠崎 桂子	長崎原爆資料館長

## 5 市側出席者

氏名	所属・補職
大庭千賀子	総務局長
重信 幸彦	平和のまちミュージアム館長
田爪 康隆	平和のまちミュージアム事務局長

### 【事務局】

平和のまちミュージアム

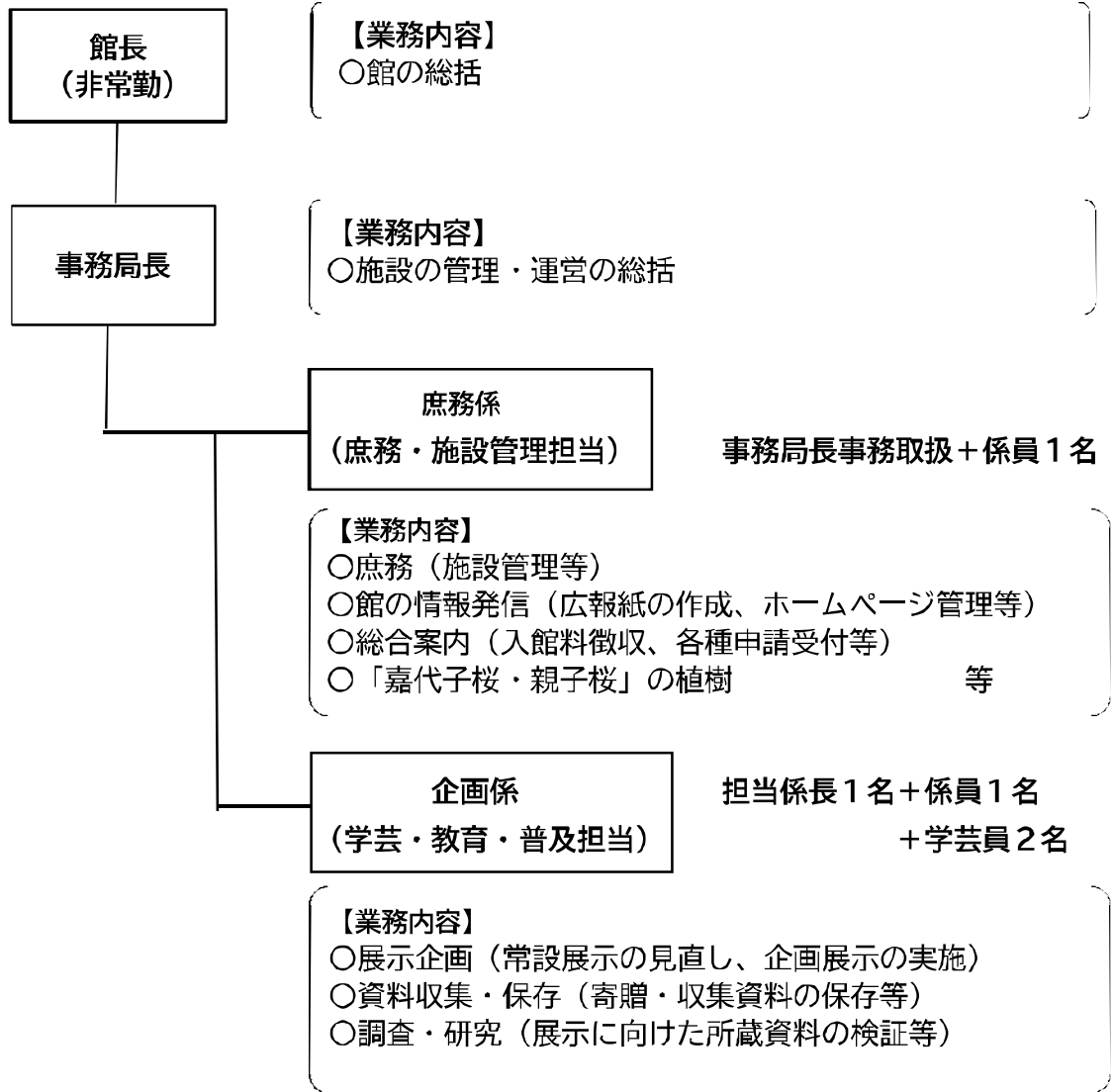
## 5 報告

平和のまちミュージアムの管理・運営の状況

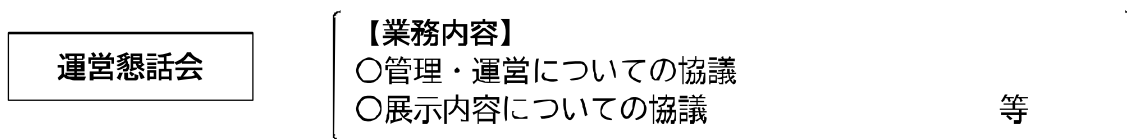
# 平和のまちミュージアムの運営体制について

## 1 管理・運営体制（令和4年度開館時）：職員7名

（組織図）



## 2 外部：有識者による意見交換会



## 令和4年度 平和のまちミュージアムの主な取組み

(令和4年4月19日～8月31日まで)

### 1 集客対策

- (1) 開館記念特別展「模擬爆弾“パンプキン”と原子爆弾」：4月～8月  
長崎市の協力のもと、原子爆弾に被災し、11時2分で時を止めた時計の展示や原子爆弾投下の練習用に開発された模擬爆弾“パンプキン”を紹介（8月から原子爆弾に被災した様々な日用品等に変更）。
- (2) JR九州ウォーキング見学コースへの参加：5月  
JR西小倉駅周辺の史跡や施設等を歩いて巡るJR九州ウォーキングのコース内の見学施設に平和のまちミュージアムを設定。
- (3) 平和のまちスタディツアー：6月～3月  
市内の小学校6年生を対象に、平和のまちミュージアムでの平和学習を行うとともに、地域の歴史・文化（小倉城、文学館、松本清張記念館等）、や議会棟を巡る「バスツアー」を実施。
- (4) 北九州市立大学学生のボランティア参加：6月～7月  
平和のまちスタディツアー実施時に、北九州市立大学地域共生教育センター（通称：421Lab.）所属の学生グループ（平和の駅運動プロジェクト・桜丘小学校学習支援プロジェクト）が、児童への展示解説等を行うボランティアスタッフとして参加。
- (5) 北九州市立大学「北九州文化資源調査隊」活動支援：6月～12月  
大学生が市内の歴史・文化施設を見学し、その魅力を紹介するポスター等を製作するため、施設見学や展示解説等を学生の学びを支援。
- (6) 平和のまちミュージアムライトアップ：8月5日～7日  
“わっしょい”百万夏まつり（8月5日～7日）期間中にライトアップや夜間開館（8月5日～8月9日は20：00まで）を実施。
- (7) 原爆犠牲者慰霊平和祈念式典（休憩スペース等設営）：8月9日  
エントランスを開放し、8月9日に開催される「原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」の休憩スペースの設営や式典を館内モニターで上映。

**(8) 夏休み特別講座：8月7日・11日・21日**

学芸員による戦前から戦後の市民の暮らしに関する解説や、戦争体験談の講話等、親子で平和や北九州の歴史を学ぶ講座（3回）を開催。

日程	講師	概要
8月7日（日） 10:00～11:30	いのちのたび博物館 歴史課長 日比野 利信	当時の小倉、北九州市の空襲、長崎原爆について学ぶ。
8月11日（祝） 10:00～11:30	児童文学作家 黒瀬 圭子	門司での戦争体験を語るとともに、自身の体験を描いた絵本「白いなす」を朗読する。
8月21日（日） 13:30～15:00	長崎市家族証言者 原田 小鈴	広島と長崎で被爆した祖父（二重被爆者）の体験等の講話を行う。

**(9) 広報・PR：4月～**

ミュージアムホームページの解説やLINEを活用した展示資料解説、新聞社とタイアップした子供向け広報紙への施設紹介記事の掲載等による情報発信。

**【参考：令和4年度後半の主な取組み】**

**(1) 企画展「“軍都”北九州とその痕跡」：9月～10月**

“軍都”と呼ばれた歴史や今も残る市内の戦跡等を紹介する。

**(2) 歴史・文化を感じるデジタルスタンプラリー：11月**

平和のまちミュージアム近隣の歴史・文化施設や史跡・戦跡を巡り、施設のPRや小倉城周辺の回遊性を促進するため、スマートフォンを活用したデジタルスタンプラリーを行う。

**(3) 戦跡ツアー：11月**

市内の戦跡を巡るバスツアーを実施する。

# 平和のまちスタディツアーについて

## 1 事業趣旨

小学生6年生を対象に、平和のまちミュージアムでの学芸員による展示の解説や、本市独自に作成した副読本を用いた平和学習を行うとともに、近隣の歴史・文化施設や議会棟を見学する。

参加する各学校の児童は、平和学習に加えて、地域の歴史・文化、議会や選挙制度（主権者教育）を学ぶ。

## 2 対象 原則、小学校6年生（私立小学校も含む）

## 3 学習内容

### (1) 訪問施設

「平和のまちミュージアム」 + 下記コースの施設（1コースを選択）

コース	訪問施設
A	議会棟（時期は6月中旬～7月、10月～11月、1月～2月中旬に限る）
B	文学館&松本清張記念館 ※原則、両施設を訪問しますが、文学館のみの訪問日があります。
C	子ども図書館
D	小倉城（小倉城庭園） ※小倉城庭園の訪問も可能。
E	その他（水環境館見学、勝山公園散策等）※徒歩圏内、各学校で要調整

### (2) 学習パターン

- ・ 「平和のまちミュージアム」のほか、A～Eのいずれかのコースを「午前」あるいは「午後」の半日で訪問する。

### (3) 時間設定

- ・ 「平和のまちミュージアム」とA～Eのうち1コースをそれぞれ「60分」。

	先に訪問する施設	後に訪問する施設
午前	① 9:30～10:30	② 10:45～11:45
午後	① 13:15～14:15	② 14:30～15:30

(4) 受入単位 2クラス程度（上限80人程度）

(5) 実施時期 令和4年6月～令和5年3月（学校の長期休業日を除く）

(6) 実施曜日 火曜日、水曜日、木曜日、金曜日（祝日は不可）

## 4 実績（令和4年6月～7月）

54校(3,157人)が参加、平和のまちミュージアムに加え、72ヶ所の施設見学を行った。



## 平和のまちミュージアムの入館者数（8月18日現在）

（単位：人）

区分		4月	5月	6月	7月	8月	計	割合
有料	一般 （大学生を含む）	1,052	2,041	699	300	471	4,563	25.5%
	中高生	43	77	29	7	44	200	1.1%
	小学生	94	157	64	29	140	484	2.7%
	割引対象 （団体・高齢者）	228	653	193	44	4	1,122	6.3%
無料	関係者見学等 （行政・教員等）	197	582	322	369	256	1,726	9.6%
	おでかけ応援 （7月・8月限定）	—	—	—	3,302	3,027	6,329	35.3%
	スタディツアー （小学6年生・教員）	—	—	2,327	1,178	0	3,505	19.5%
計		1,614	3,510	3,634	5,229	3,942	17,929	—
開館日数		11	26	26	23	16	102	—
1日平均		146.7	135.0	139.8	227.3	246.4	175.8	—

### 【来館者の主な感想】

#### （実際に戦争を体験された方）

- ・当時の苦しかった暮らしを思い出した。若い人にも足を運んでほしい。
- ・若い世代の人にも、展示を見てもらい、戦争のことを伝えていくことが大事だ。

#### （小学生と一緒に来館した親子の感想）

- ・ウクライナの報道をよく見るため、子どもと平和を考えたいと思い来館した。  
子どもにとって、戦争のことを考えるきっかけになったと思う。
- ・小倉に兵器工場にあったことを子供は驚いていた。地域の歴史を学べる良い施設だ。
- ・スタディツアーに参加した子供に連れられ、一緒に来た。平和の大切さを学べた。

**(平和学習で訪れた小学生・中学生の感想)**

- ・多くの命の犠牲があって今の平和な生活があることを忘れてはいけないと思った。
- ・展示がすごく分かりやすく、特に戦時中の暮らしが身近に感じる事ができた。
- ・戦争体験を聞き、被災した物を見たりして、戦争の悲惨さを感じる事ができた。
- ・戦争の無い世界について、改めて、自分で何が出来るか考えてみたいと思った。
- ・平和な世界のために戦争の犠牲になった方に感謝したいと思った。

**(市議会での質問: 6月)**

- ・歴史の深い学びにつながるよう、当時の世界情勢等、歴史的背景が分かる写真や資料を加え、日本がなぜ戦争の道に進んでしまったのかを展示する必要がある。

**【主な団体実績】**

※平和のまちスタディツアー除く

日程	団体名
5月18日	祝町市民センター（生涯学習市民講座）
5月20日	連合政令指定都市連絡会議
6月2日	松ヶ江中学校
6月22日	観光案内ボランティアガイド（研修）
7月19日	北九州市立大学文学部真鍋ゼミ
7月21日	小倉北区自治総連合会
7月22日	小倉高校新聞文芸部
7月24日	多の津青年部（福岡市）
8月9日	九州国際大学現代ビジネス学部三輪ゼミ
8月10日	若草やはた（児童福祉施設）

戦時資料の収集状況（令和4年8月）※市民からの寄贈分

区分	主なもの	点数	例
紙類 (2,161)	手紙・はがき	468	兵士から家族あて、慰問はがき
	債券・証券	486	戦時貯蓄債券
	通知書・証書類	334	戦死者通知書、志那事変従軍証書
	写真	301	家族写真、遺影
	雑誌・小冊子	93	婦人倶楽部、主婦之友
	新聞	18	戦中から戦後のスクラップ
	ポスター	11	戦意高揚ポスター（お国のためだ）
	貯金通帳	11	国債貯金、郵便貯金
布・皮類 (370)	軍関係の制服類	210	軍服（陸軍、海軍、予科練）
	日の丸寄せ書き	29	—
	袋類	22	奉公袋、慰問袋
	一般衣類	8	母親の着物
	千人針	3	—
金物類 (691)	食器・スプーン	982	兵士が外地で使っていたもの
	飯盒	10	
	水筒	15	
	鉄兜（日本軍）	8	
雑類 (373)	紙幣・貨幣・軍票	117	戦争中の軍票（軍隊が使用する手形）
	バッチ・記章	123	従軍記章
	腕章	13	憲兵
	階級章（軍隊）	10	勲章（中尉、軍曹）
	B29破片	3	エンジン部分の破片
計		3,275	—

## 平和のまちミュージアム寄贈資料の取扱いについて

### 1 寄贈資料の取扱いについて

貴重な戦争体験や当時の暮らしを物語る日用品等の資料を後世に伝えるため、市民に寄贈を呼びかけ、収集・保存を行う。

また、収集した資料は、平和のまちミュージアム（以下「ミュージアム」で一部、展示するとともに、映像等を活用した展示に活用する。

#### (1) 基本的な考え方

- ・戦争により大きく変わった市井の人々の暮らし・“まち”の様子
- ・北九州を襲った空襲の被害、原子爆弾と小倉
- ・戦後、復興を果たした“まち”の様子

上記の展示テーマを重視し、寄贈を受ける。

#### (2) 寄贈資料の分類について（寄贈が想定される資料）

種類	例
実物資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活品 (各種配給切符、国民服、紙幣、証券、貯金通帳、軍票、防空頭巾等)</li> <li>・教育・子ども用品(玩具、学用品等)</li> <li>・軍装品(軍服、軍靴、かぶと、階級章、軍隊手帳、軍旗等)</li> <li>・軍隊生活用品(食器、水筒、慰問袋、寄せ書き、勲章等)</li> <li>・代用品(陶製、貝製、竹製、紙製、籐製等)</li> <li>・空襲関係(焼夷弾の破片)</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
写真資料 映像資料 音声資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦中、戦後の関連写真、報道写真</li> <li>・戦時中のニュース映画、記録映像、音声資料</li> <li>・戦争体験者の証言ビデオ、音声テープ等</li> <li>・戦争に関する映像作品(ドラマ、ドキュメンタリー)</li> <li>・類似施設の紹介ビデオ</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
図書資料 文献資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦争中の新聞、ポスター、雑誌、教科書</li> <li>・国及び地方公共団体が出版した図書</li> <li>・国内外の類似施設が出版した図書、年報、機関誌等</li> <li>・体験記等の自費出版の図書</li> <li>・戦争をテーマにした文学作品</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>

## 2 収集する寄贈資料について（具体例）

資料は日用品等の実物資料のほか、書類や新聞等の紙類、写真・映像等とする。

### （1）北九州固有のもの

- ・八幡大空襲をはじめとする本市への空襲に関する資料  
例) 空襲後の市街地の様子を撮影した写真や映像、当時の新聞、  
投下された爆弾の破片 等
- ・小倉陸軍造兵廠をはじめとする本市に駐留した軍隊に関する資料  
例) 歩兵第14連隊の活動を撮影した写真や映像、当時の新聞、  
造兵廠での作業風景を撮影した写真や映像、作業関係の書類 等
- ・北九州の市民の暮らし振りを表す日用品  
例) デパートのチラシ・ポスター、行政文書 等

### （2）北九州固有+全国的なもの

- ・戦前から戦後の市民の暮らしが分かる資料  
例) 日常生活用品、防空活動に関連した資料、出征兵士の携帯品 等
- ・戦後復興が分かる資料  
例) 闇市など戦後の混乱期や復興に向けた活動を撮影した写真や映像 等

※当時の北九州の人々が使用したことが明記されていなくても、全国的に普及し、北九州でも使用されていたと考えられる資料（日用品、雑誌等）は収集する。

## 3 収集対象にならない資料の例

### （1）北九州に関連がないもの

- 例) 他都市の空襲で使用された焼夷弾破片・空襲警戒のビラ  
他都市で開催された戦後の博覧会チラシ  
外地での軍隊の活動記録 等

### （2）戦後に作成したもの（戦時中の様子、戦後の復興が分かる資料を除く）

- 例) 平和の願いを込めた俳句・絵画等、回想録、パネル、複製品 等

### （3）個人に関わるもの

- 例) 遺影等の肖像写真、文章、絵画、彫刻 等

### （4）個人の主義・主張を表すもの

- 例) 平和安全法制反対等を訴える俳句・絵画 等

### （5）武器・兵器

- 例) 銃刀、砲弾 等

## 6 議 題

集客事業について（今後の方向性）

## 集客事業について（今後の方向性）

### 1 来館者の状況・課題

#### （1）小学校児童や中学生に比べると、高校生・大学生の来館は少ない。

高校では平和学習は行われていないため、学校単位で来館することはほとんどない。

大学生については、一部の学校とは、連携した取り組みを進めているが、他の大学との連携は進んでおらず、今後は、多くの大学生の来館に繋がるような取り組みが必要である。

#### （2）幅広い世代が興味を持ち、参加できるイベントの開催が少ない。

幅広い世代にミュージアムの魅力を感じ、愛着を持ってもらえるよう、小学校の夏休み期間の親子講座を実施した。

今後は、親子のみならず、高齢者等にも参加してもらえるようなイベント等が必要である。

#### （3）団体等との連携が進んでいない。

市内には戦争体験の聞き書きを行っている団体や郷土史を研究している団体もあり、これらの団体と共同で事業を行うことは、集客や収集資料の研究の充実に繋がる。

団体から戦争体験の語り部の紹介等も行われているが、今後は、合同イベントや共同展示等の連携が必要である。

### 2 論点

- ・ 高校生や大学生が来館する仕掛け
- ・ 幅広い世代が来館する仕掛け
- ・ 団体との連携による集客を図る仕掛け